

令和5年度 第1回 磐田市旧見付学校協議会議

- 1 開催日時 令和5年8月27日（土）13:30～15:00
- 2 開催場所 磐田市埋蔵文化財センター 2階 研修室
- 3 出席者
(1) 協議会委員：兼子修美（会長）、大橋剛（副会長）、八木義弘、金子貴正、高橋邦宏、平野徹、木村哲朗
※清水孝彦委員は当日欠席
(2) 事務局：磐田市教育委員会文化財課：竹内、神谷、江間、松井

次第

1. 開会
2. 委嘱状・辞令書交付
3. 委員紹介
4. 課長挨拶
5. 会長・副会長選出
6. 会長・副会長挨拶
7. 議事

(1) 史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画（案）について

事務局 史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画（案）を提示し、計画の目的、作成状況、計画（案）の概要等について説明を行った。

【質疑・意見】

○施設周辺の管理について

委員 「史跡周辺にある市有地について管理を一本化する。」との記載があるが、その実施時期等の見通しは。

事務局 実施時期については未定です。将来、周辺整備を実施する時には、管理を文化財課へ一本化するとの方向で、所管課と協議しており了解を得ています。

○旧見付学校の耐震化について

委員 旧見付学校及び磐田文庫の耐震診断が行われていないのは問題ではないか。いつ地震が来てもおかしくないということで、行政からも市民に対し「耐震診断をしてください。」と指導しているにもかかわらず、耐震診断を今までやってこなかった理由はあるのか。

事務局 建物の耐震については、保存活用計画の中できちんと位置付けて耐震補強等の事業につなげていく方針で考えております。本計画が認定された後、地震対策について優先的に実施したいと考えており、耐震補強だけでなく建物内の利用方法等についても見直していくことが必要になると考えています。

委員 耐震補強を実施する場合、ビルで実施されているように外に鉄骨を付ける等、大きく外観が変わってしまうのか。

事務局 耐震対策の事例について調査は行っていませんが、外観が変わらないよう壁の内部等の出来るだけ見えないところに補強対策をする方法を検討していくことになると思います。

委員 これまで実施してきた調査で耐震に関連したものはあるのか。

事務局 石垣の3D測量を実施し、現況把握を行いました。このデータを基準にして比較することで経年変化等の石垣の健全性を把握することが出来ます。旧見付学校は、石垣の上に建物が建っているため石垣が崩れれば建物も倒壊するため、耐震補強をするにあたっては、その状態を加味して設計する必要があるためその基礎データになります。また、保存活用計画の中に石垣内部の発掘調査をする計画を記載しておりますが、この調査を実施することで石垣や地盤の状態についても把握する予定です。

委員 いつ頃耐震調査を実施する見通しか。

事務局 保存活用計画に概略の計画ということで記載いたしました。令和8年から9年ぐらいに調査を実施する予定としております。

委員 今後実施する耐震のための調査や、補強には多額の費用が掛かると思うがどのくらいを想定しているのか。

事務局 費用については調査や補強の実施方法により大きく異なるため、今後、文化庁と内容を協議したうえで算出し、国庫補助等の財源を得て実施していくことになると思います。

(2) その他

見付学校のイベント、施設利用状況等について

事務局 今年度のイベントとしては、9月17日に小学生以下を対象とした「昔の授業体験」を実施します。9月1日から定員30名で募集を始めます。また、10月30日に見付地区の見付宿を考える会で「たのしい文化展」を開催するため、それに合わせて「緋の着物を着て見付の町を散策する」という催しを開催いたします。

入場者数については、令和5年度は4月から6月の3か月間で前年比2000名増のため、コロナ禍前の状況に戻るのではと期待しています。また、日本に就労に来る外国人の方が団体で研修のため来館されるなど、いろいろな目的で使っていただく機会が増えており、ありがたいと感じています。

旧見付学校の修繕について

委員 旧見付学校入口の表札が薄くなって見えないので対応を検討して欲しい。

事務局 開校当時の表札が残っているので、そのデータを採って新たにレプリカを作成できないか検討しています。

委員 旧見付学校内の天井の紙が破れているので張り直しできないか。

事務局 耐震補強等実施時に併せて内装等についても改修したいと考えていますが、それまでのつなぎとして、何らかの補修について検討したいと考えます。ただし、文化財であるため、現状と異なる仕様での補修は困難な場合もあります。

8. 閉会